

茅ヶ崎市で保護されたシロハラミズナギドリの記録

伊藤恵美・栗林弘樹

Megumi Ito and Hiroki Kuribayashi: Notes on the rescued Bonin petrel from Chigasaki city

はじめに

シロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca* は、外洋に生息するミズナギドリ科の鳥で、日本近海では小笠原諸島の賀島と硫黄島で繁殖している。日本野鳥の会神奈川支部(1998)によると、本鳥の神奈川県における記録は、台風などで内陸に迷行し、保護された約10例が報告されているにすぎない。今回、神奈川県自然環境保全センター(以下、センター)にシロハラミズナギドリが保護されたので、ここに報告する。

種の同定

頭部が黒く、白い翼下面の翼角付近には三角形に黒斑が見られるという特徴から、本鳥をシロハラミズナギドリと同定した。センターでは、1978年から野生傷病鳥獣の保護をはじめて以来、1982年、1994年に続く3例めの記録である。

保護状況および経過

本鳥は平成12年9月1日、茅ヶ崎市矢畑の道路上にうずくまっていたところを保護されたものである。保護者は動物病院に相談し、海水とアミ、シラスを与えて2日間自宅で過ごさせた後、平成12年9月3日にセンターに運んでいる。センターに運ばれてきたときの体重は93.0gで削瘦しており、外傷、骨折などはみられないものの元気は消失し、一般状態は極めて悪かった。

本鳥にはアジの切り身を与え、保温を施し安静を保ったが、翌日の平成12年9月4日に死亡した。同日、死体を計測し、写真に収めた(図1-3)。計測値は次のとおりである。全長315.0mm、翼長220.4mm、翼開張710.0mm、嘴峰長25.6mm、会合線34.4mm、尾長118.1mm、体重99.0g。

おわりに

シロハラミズナギドリをはじめとする、外洋域

に分布する鳥が内陸で確認されるのは、台風による場合が多い。しかし本鳥が保護された、平成12年9月1日から1ヶ月ほどさかのぼり、日本近辺の台風の進路を確認してみたが、関東に上陸また接近した台風はなかった。また、同時期に県内の他の野生傷病鳥獣保護施設に、シロハラミズナギドリが保護された、という記録もないことから、本鳥は台風以外の何らかの原因によって、単独で迷行したと思われる。

先に述べたとおり過去、シロハラミズナギドリの神奈川県内での報告数は少なく、本鳥の保護例も神奈川県の鳥類相データベースとして、貴重な報告の1つになるであろう。

謝 辞

本鳥を同定するにあたっては、神奈川県立生命の星・地球博物館の中村一恵氏にご教示いただきました。ここに謹んで感謝申し上げます。

引用文献

日本野鳥の会神奈川支部, 1998. 神奈川県の鳥 1991-96, 神奈川鳥類目録Ⅲ, p.5. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜.

(神奈川県自然環境保全センター)



図1. シロハナミズナギ
ドリ頭部.

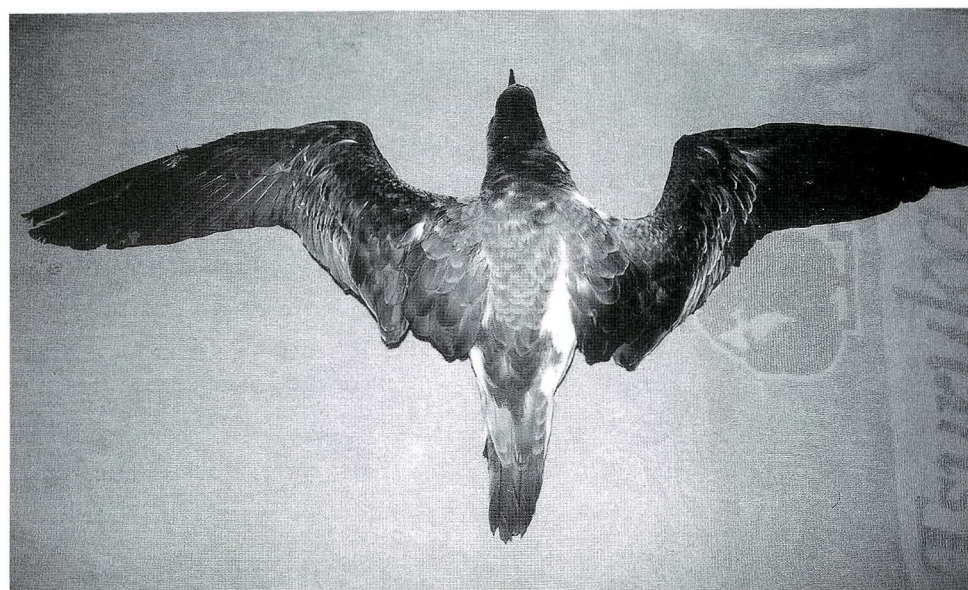


図2. シロハラミズナギ
ドリ翼上面.

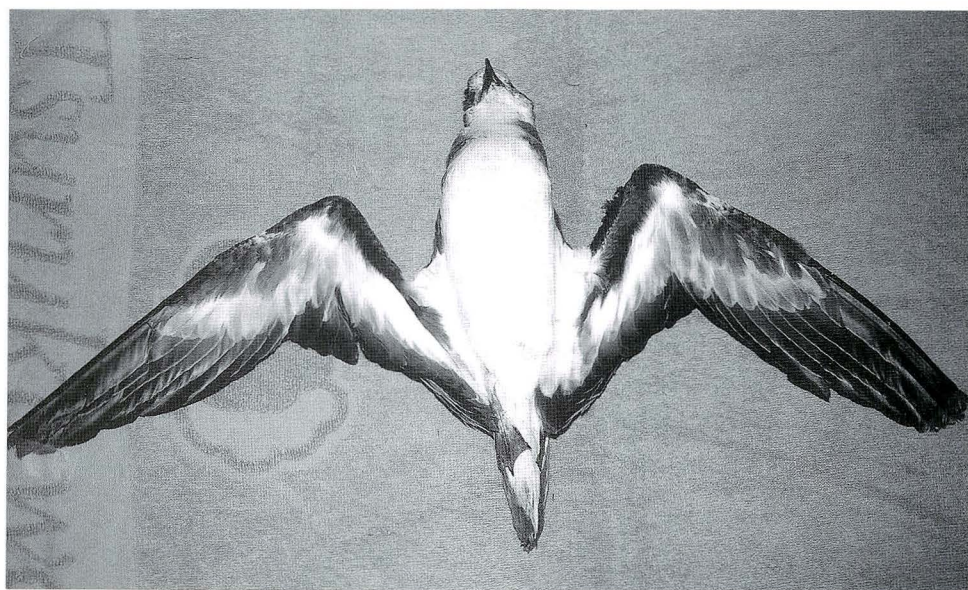


図3. シロハラミズナギ
ドリ翼下面.